

## 豊府中高の皆さんへ



校長 野尻 明敬

「爽やかな朝」今日(19日)。体育館前で、中学2年生と高校3年生を迎えました。マスクをしている中でも、丁寧な挨拶や笑顔が見られホッとしました。天には五月の青空が広がり、清々しい気分でした。私は、クラス担任を15年間しました。豊府の保護者の中にも、私が若いころ担任をしていたり、社会科(当時)の授業に行っていたりした方もおられます。クラス担任をしていた時は、朝の時間、朝の出会いを大切にしていました。朝のようすで、一日の気分が違います。30代の時には、教室の正面に、「爽やかな朝」というキャッチフレーズを掲示していました。早くコロナが収束して、全員でかつてのような「爽やかな朝」を迎えられることを心から願っています。

しばらくの休校の後、先週から学年ごとの分散登校が始まりました。ICT機器を活用したホームルーム、授業、質問受けなど、先生方は工夫をしながら、日々を過ごしています。やはり対面で、生徒の皆さんの反応を見ながらホームルームや授業をしたいと、誰もが思っています。早く、通常の皆さんとの生活が戻ることを期待しています。先生方は、全力で皆さんを支えます。来週から、時間制限がある中での一斉登校、そして、順調に行けば、6月からは通常に近い日々の生活が待っています。もちろんマスク着用や手洗いの励行など、コロナに対するリスク軽減を1人ひとりが心がけることが前提です。最近では、『新しい生活様式』とも呼ばれていますが、皆さんにも、社会の一員としての自覚を認識してもらいたいと思います。

さて、この3カ月近く家庭で過ごす時間が増えていますが、どのように充実させていますか。コロナの話題が多く、気持ちがすっきりしないこともあるかも知れません。こんな時だからこそ、生徒の皆さんには、社会に目を向けて欲しいと考えています。これまでの社会では、人々はいくつもの大きなヤマを乗り越えて来ました。90年以上前には、世界恐慌。50年近く前には、オイルショック。近年では、バブル崩壊やリーマンショックもありました。今の社会のようすを、新聞やニュースでしっかりと認識して、数年後に大人として自立したときに、これからの21世紀を逞しく歩んで欲しいものです。

私は、世の中が大変だと言われると、米ソ冷戦時代のアメリカ大統領ケネディの名演説を思い浮かべます。「**あなたの国があなたのために何をするかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるのかを問うてほしい**」という一節です。豊府中・高生徒の皆さんには、家族に、地域に、学校に、大分県に、日本に、いや世界に何ができるか、将来、どのような貢献ができるかを考えてみてもらいたいと思います。このようなことに関心がある人は、近いうちに、私と話しをしてみませんか。お待ちしております。

校内では、マスクをしていますので、なかなか私の顔を覚えてもらえないかも知れません。今日は、顔写真入りで、5月の校長講話をさせていただきました。



